

千葉市美術館企画展「密やかな美 小村雪岱のすべて」  
～マルチに活躍した「昭和の春信」小村雪岱を紹介する過去最大規模の展覧会～

千葉市美術館では、企画展「密やかな美 小村雪岱<sup>こむらせつたい</sup>のすべて」を開催しますので、お知らせします。

大正から昭和にかけて、日本画や書籍の装幀、挿絵や舞台装置、映画の美術考証など幅広いジャンルで活躍した美術家の小村雪岱（1887-1940）。本展は、約650点の作品・資料で小村雪岱の画業の全貌に迫る展覧会です。開催に先立ち、4月10日（金）14：00から記者の皆さまへの説明会を実施しますので、ぜひ取材にお越しください。

## 1 会期

令和8年4月11日（土）～6月7日（日）  
（前期）4月11日（土）～5月6日（水・祝）  
（後期）5月8日（金）～6月7日（日）  
休室日 4月13日（月）、20日（月）、27日（月）  
5月7日（木）、11日（月）、18日（月）、25日（月）  
6月1日（月）

## 2 会場

千葉市美術館（中央区中央3-10-8）

## 3 主催

千葉市美術館、毎日新聞社

## 4 ポイント

### ◆装幀、挿絵、舞台美術、日本画などマルチに活躍した小村雪岱の過去最大規模展

小村雪岱（1887-1940）は、大正から昭和初期にかけて日本画や書籍の装幀（デザイン）、挿絵、舞台装置（演劇の舞台上に設けられる背景やセット）、映画の美術考証など幅広いジャンルで活躍した美術家です。情趣あふれる端麗な画風から江戸時代の浮世絵師・鈴木春信になぞらえ「昭和の春信」と称されました。近年ではそのモダンなデザイン性などが注目され、人気を集めています。

本展では、雪岱の代表作を網羅するとともに、約650点の作品・資料を時代順に展示します。彼が協働した文学者や画家、出版人、舞台人など「人」とのつながりから再考する、過去最大規模の展覧会となります。

### ◆美しい装幀、大衆を魅了した挿絵の仕事を一堂に

小村雪岱が世に出るきっかけとなった泉鏡花作「日本橋」の装幀をはじめ、作品の視覚化に応えた雪岱の装幀の仕事は多くの作家から支持されました。本展ではデビュー作である「日本橋」から晩年まで、多色木版刷、箔押しといった高度な職人技術を駆使した繊細で美しい意匠をこらした装幀本の数々を一堂に展覧します。

また、新聞、雑誌が成熟、拡大した時代である大正、昭和の時代に、雪岱は大衆文芸の担い手として多くの挿絵を手掛け、人気を博しました。この挿絵の仕事の中で、細く強靱な描線、潔く単純化した構図、黒と白のコントラスト、見得に通じる独特な人物の姿態といった雪岱独自のスタイルである「雪岱調」も生まれました。

今回は、近年原画が発見され小村雪岱展としては初出品、関東では初公開となる泉鏡花「山海評判記」の挿絵原画をはじめ、「雪岱調」を極めた邦枝完二との仕事である連載小説「おせん」「お傳地獄」などの代表作、そして絶筆となった「西郷隆盛」まで、大正・昭和の大衆を魅了した挿絵の数々を紹介します。

#### ◆日本画家としての小村雪岱に着目

雪岱は東京美術学校（現・東京藝術大学）に入学して以来、日本画家の松岡映丘との親交を通じて、制作数は少ないながら生涯にわたり断続的に日本画を描き続けてきました。本展では雪岱の日本画の中でも印象的で人気の高い「青柳」「落葉」「雪の朝」をはじめ、初期から晩年までの肉筆作品を一堂に展示し、本展ではこれまで装幀や挿絵の仕事の影に隠れがちであった日本画家としての小村雪岱の魅力をご紹介します。

#### 5 観覧料

一般 1,500円（1,200円）、大学生 1,000円（800円）

※小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1人は無料

かつこ内は前売券、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は、ローソンチケット（Lコード 31866）、セブンイレブン（セブンチケット）、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて4月10日（金）まで販売（4月11日（土）以降は当日券販売）

※本展チケット（有料）半券のご提示で、会期中2回目以降の観覧料500円引

※金・土曜日の18：00以降はナイトミュージアム割引により観覧料2割引

#### 6 関連イベント

講演会やワークショップ、担当学芸員によるショートレクチャーなどを開催します。（詳細は別紙参照）

#### 「密やかな美 小村雪岱のすべて」披露説明会

##### 1 日時

4月10日（金）①14：00から ②17：00から

※別日でも対応可能ですので、事前に下記問い合わせ先までご連絡ください。

##### 2 場所

千葉市美術館 8階展示室

##### 3 内容

展覧会や主な展示作品の見所について担当学芸員からご説明します。

#### <本件に関するお問い合わせ先>

千葉市美術館 担当学芸員 西山 純子  
広報担当 磯野 愛

電話 043-221-2311

FAX 043-221-2316

メール isono@ccma-net.jp